

北九州

11/15
2011
平成23年 No.1158



各種申請手続き、市政について
北九州市コールセンター
☎671-8181 年中無休 8時～21時

夜間・休日の病気やけがについて
テレフォンセンター
☎522-9999

子どもに関する悩みや相談について
24時間子ども相談ホットライン
☎881-4152

消費生活に関する相談について
消費生活センター
☎861-0999
月～土曜日(祝日は除く)の8時30分～
16時45分(第3土曜日は13時まで)

編集・発行 北九州市広報室広報課 〒803-8501 北九州市小倉北区城内1-1 ☎(093)582-2236 FAX(093)582-2243

北九州市ホームページ <http://www.city.kitakyushu.lg.jp/>

特集
地域づくり……………1 情報ステーション……………4～7
トピックス……………2～3 ※最終ページは若松区の情報です

【人口】(平成23年10月1日現在)
97万4729人
世帯数 42万4091世帯
※この数値は国勢調査の速報値に基づき人口・世帯数を推計したものです。

特集 地域づくり

みんなで作ろう 住みよいまち

「昭和の時代には、ごく普通に近所付き合いがありました。しかし、いつの頃からか地域の交流は希薄になりました」と語るのは、曾根校区まちづくり協議会会長の西田勝さん。同校区では昔のように地域のふれあいを活性化するため、まちづくり協議会の構成メンバーである13の自治会が中心となつて、さまざまな取り組み

「次々世代」育成で地域交流を活性化

「昭和の時代には、ごく普通に近所付き合いがありました。しかし、いつの頃からか地域の交流は希薄になりました」と語るのは、曾根校区まちづくり協議会会長の西田勝さん。同校区では昔のように地域のふれあいを活性化するため、まちづくり協議会の構成メンバーである13の自治会が中心となつて、さまざまな取り組み



今回は、地域の交流や課題解決に積極的に取り組む小倉南区曾根校区まちづくり協議会会長の西田さんに話を聞きました。

を行っている。活動のテーマは「心と身体の健康校区」ふれあいの和と輪をつくる曾根のまち」。

その中でも、力を入れているのが「次々世代」の育成による交流。会長たちの世代から見て孫にあたる世代を同校区では次々世代と呼び、地域ぐるみで育成する。5年前から始めた「曾根つ子クラブ」は、貫山登山や貫川下りなど、主に地域の自然に親しむイベントなどを年14回行い、ふれあいの

場としている。「このクラブには、校区内の小・中学生の多くが登録し親睦を深めています。また、60人近くの大人もサポーターとしてクラブの活動を支えてくれています。川下りのいかだを大人と子どもが一緒に作るなど、世代を超えた交流ができています」と会長は語る。さらに、子どもが地域の交流に参加することで、その親の世代も行事に参加し、三世代での交流ができるようになったという。「世代間の交流が深まり、子どもたちは大人からいろいろ学んでいます。体育館に入る時には、今ではきちんと靴を揃えて入館します」。曾根つ子クラブの活動は文部科学省から表彰も受けた。



▲曾根校区まちづくり協議会会長 西田 勝さん

10月15・16日には「ふれあいまつり」が行われ、出店の店主を大人と一緒に子どもたちが務めた。また、売上金の一部は東日本大震災義援金として被災地へ。「子どもたちにはたくさん学んでほしい。そして地域の大切さを感じ、大人になってもこの曾根校区で活動をしてもらえればと思います。これからもあたたかい目で子どもたちの成長を地域で見守りながら、三世代での交流を深めていきます」。

よりよいまちにするために

同校区では地域の安全・安心にも力を入れる。毎年3月には、300人もの住民が参加する防災訓練を行っているが、やはり主役は中学生。避難誘導やけが人の搬送などを主体となつて行う。「昼の時間帯は親の世代は仕事で地域にいない。いるのは高齢者と子どもだけ。地域の安全を守るには子どもたちの力が必要。地域の一員であること、地域の大切さを活動を通じて感じてほしい」と西田会長。

曾根校区の特徴

◆地区の概要

小倉南区にある曾根校区は、貫山や足立山に囲まれた曾根平野のほぼ中心に位置する自然豊かな地域。

◆人口 約12000人
◆世帯数 約4700世帯

◆地域の現状

新興住宅地が開発された当時は、若い世代も多く活気にあふれていたが、現在は少子高齢化が進んでいる。

◆地域の活動

自治会が中心となって構成するまちづくり協議会が地域活動を支える。

少子高齢化や核家族化の進行、地域の連帯意識の低下など社会環境が変化する中で、地域を取り巻く課題は複雑、多様化しています。これらの課題解決には地域住民同士が支えあい、主体となつて取り組んでいくことが大切です。よりよい地域となるために、皆さんも地域の活動に参加してみませんか。
